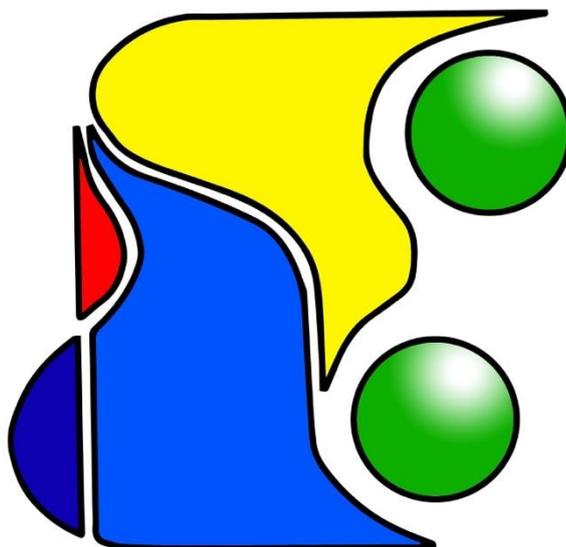


SPACC  
先端錯体工学研究会

The Society of Pure and Applied Coordination Chemistry

# News Letter

## (December, 2020)



SPACC ニュースレター  
(2020年12月号)

目次

1. 川本圭祐先生 追悼集

「川本圭祐君を偲んで」

先端錯体工学研究会 会長  
西岡 孝訓

「川本さんの金沢での思い出」

金沢大学理工研究域物質化学系  
林 宜仁

「川本圭祐博士を偲んで」

関西学院大学 理工学部 環境・応用化学科  
橋本 秀樹

「川本圭祐君 追悼」

岡山理科大学フロンティア理工学研究所  
赤司 治夫

「川本圭祐先生を偲ぶ」

SPACC 事務局 生体分子設計学研究室 2015年度卒業生  
前田 友梨

「川本圭祐先生を偲ぶ言葉」

第一稀元素化学工業株式会社  
(金沢大学大学院自然科学研究科修了)  
鎌倉 宗太郎

2. 日本化学会春季年会特別企画（SPACC 協賛）開催のお知らせ

3. SPACC 一般会員および学生会員ご入会のお願い

4. 今後の行事予定および事務局からのお知らせ

★賛助会員からのお知らせ

1. 川本圭祐先生 追悼集



故 川本圭祐氏  
(元金沢大学助教、先端錯体工学研究会運営委員事務局担当)

## 川本圭祐君を偲んで

先端錯体工学研究会 会長

大阪市立大学大学院 理学研究科 物質分子系専攻

西岡 孝訓

e-mail: nishioka@sci.osaka-cu.ac.jp

SPACC26 の開催も迫った 2019 年 12 月始め、川本圭祐君が不慮の事故で逝去されたとの連絡をいただき、驚きと悲しみと残念な思いにつつまれました。皆様もご存じの通り、川本君は 2016 年から先端錯体工学研究会のニューズレター担当として、また 2 年前からは事務局として研究会の運営に貢献して頂きました。今後、さらなる活躍を期待していましたが、本当に残念でなりません。ここでは、私と川本君のエピソードを思い起こし、彼の人柄について紹介させて頂きたいと思います。最初に川本君の略歴を紹介させていただきます。

### 川本圭祐君の略歴

2007 年 4 月 岡山理科大学 理学部 化学科 入学

2010 年 3 月 同 退学（修士課程に飛び級）

2011 年 4 月 岡山理科大学大学院 理学研究科 修士課程 化学専攻 入学

2012 年 3 月 同 修了

2012 年 4 月 大阪市立大学大学院 理学研究科 後期博士課程 物質分子系専攻 入学

2015 年 3 月 同 修了 博士（理学）取得

2016 年 4 月 金沢大学 理工研究域 物質化学系 助教 着任

私と川本君と出会ったのは彼が M1 の時で、岡山理科大で集中講義を行ったときでした。岡山理科大の柴原先生との共同研究で質量分析の測定をすることになっていて、その研究を行っていたのが川本君だったと記憶しています。その後、大阪市立大の我々の研究室に後期博士課程の学生として移ってきました。研究室では、なかなか結果が出ずに苦労していたようでしたが、D3 の 4 月の研究室の研究報告会で発表した内容を見て私はこれなら論文にできると思い、二人で協力してこの年だけで 3 報の論文を発表しました。そして 3 年で学位を取得し、2 月には金沢大学の助教として採用して頂けることになりました。2 月初旬に面接のため金沢に向かい、帰りの電車の中から、採用内定の電話をもらったと連絡してきてくれました。その月末の 27 日金曜日に大学近くの居酒屋で当時 D2、D1 の後輩達も交えて 4 人一緒に飲んでいたときに、川本君が「せっかく大阪に来たのに、まだ USJ に行ったことがない」と突然言い

出しました。ノリのいい後輩達がいたこともあって次の日の土曜日に開門に合わせてUSJに行くことになり、そうそうと飲み会は解散しました。次の日に昼からビールを飲み肉類を食べ続け4人でまわったUSJでの記憶は未だに鮮明に残っています。そのときに乗ったジュラシックパークライドの写真は私の宝物になっています。

金沢大学に着任してからも、学会で出会う度にお互いに自分が指導している学生も連れて飲みに行きました。私が泊まったホテルでやっていた、ステーキ食べ放題、ビール飲み放題にも、大雨の中、足を運んでくれたこともいい思い出の一つです。時折研究の話もしながらの飲み会は学生にとってもいい刺激になったと思います。共同研究で大阪市大に来てくれたときも、私のグループの学生達も一緒に食事に誘ってくれたりもしました。学生達はバレンタインにチョコレートを贈ったりもしていたようです。

金沢に行くことが決まったときに「金沢は鰯が美味しいから送ります」と言ってくれていましたが、「時季外れで鰯がなかったの」とノドグロをたくさん送ってくれました。昨年末には約束通り巨大なブリを研究室に送ってくれました。私の自宅の台所が大変なことになりましたが、学生達と鰯づくしを堪能させて頂きました。

私の記憶には、人なつっこくて意外と豪快な川本君との思い出がいっぱいです。こんなに皆に好かれる性格の方は、本当に数少ないと思います。研究の方もいい結果がばんばん出てきていて、一番乗っている時期だったと聞いております。まだまだ、これからというところだったのに、本人も無念だと思います。これから本研究会の運営にも中心になって参加していただけたことと思います。本当に残念です。とりとめの無い話になってしまいましたが、最後に川本君のご冥福をお祈りします。安らかにお眠り下さい。

## 川本さんの金沢での思い出

金沢大学理工研究域物質化学系

林宜仁

e-mail: hayashi@se.kanazawa-u.ac.jp

川本圭介さんは、故郷山口から遠く離れた雪国の金沢大学に赴任されました。前途洋々やることとなすこと全てが上手くいっていた川本さんの金沢での思い出を紹介したいと思います。大学で飛び級している川本さんは日本で最も若手の科学者の一人として研究生活を始められました。川本さんは、岡山理科大学で指導を受けた柴原先生からモリブデン硫黄クラスターと呼ばれる化合物の研究を紹介され、中でも  $\text{Mo}_3\text{S}_4$  系の化合物を使いこなすことができる現在世界で唯一の科学者ではなかったでしょうか。研究室でとんでもない合成条件で  $\text{Mo}_3\text{S}_4$  を合成する様子には私は半ば呆れ、この化学を真似することは難しそうだと直感的に思いました。Spring8 に憧れがあった様で昨年からはシンクロトン放射光利用を始め実験が大好きな様子でした。誰でも彼の笑顔を見ればすぐに分かるように、多くの人に愛されてきた人柄は、母校の柴原教授、赤司教授、大阪市立大学の木下教授、西岡准教授、関西学院大学の橋本教授、磯辺教授、そして金沢の私たちにとって大切な川本さんで、また学生の指導者として大学生、院生との丁寧な議論、留学生との英語での議論を毎日欠かさず、学生と飲みに行き、彼の社交的性格から、大学職員の会合や、専門の学会、若手研究者の会の主催者の一人でした。そして数々の補助金を申請し複数以上の補助金の獲得に成功していました。彼が赴任した当時の金沢大学の化学科長は、全く顔立ちは異なるのですが、ちょうど川本さんとよく似た身長、体型でした。もちろん学科長ですから年配の方ですが最年少の川本さんと、そっくり相似形なので後ろから見ると区別が難しいのです。そのため、化学科長代理というニックネームをいただき教員の集まりの際には積極的に相似形に見える写真を二人で撮影し、学科長代理の写真が出回るなど、彼が人気者であったことを表すエピソードではないかと思います。彼は昨年特別に美しい赤色の自動車を購入し、故郷に近い広島で製造された車であることが購入のきっかけだった様です。そして、週末には、そんな遠くまでと思う距離のドライブを楽しみに金沢—山口間も車で何往復もしていた様です。雪に慣れていないせいなのか、彼の車は四駆であることはわかるとしても、雪国の人間もよく知らない特殊な装備が車にはついていました。スイッチを入れると自動的にシートなどが暖くなるそうです。亡くなる前の週には、スタッドレスタイヤという雪専用のタイヤを購入し、そのタイヤの慣らし運転のためにドライブを予定するなど、普通の人にはタイヤの慣らし運転自体を知ら

ないと思うのですが、購入した新車を愛している様でした。そして、我々は川本さんのことを大変失礼ながらスポーツ音痴であろうと予想していたのですが、大学のソフトボール大会では、ショートポジションで元野球球児の俊敏な守備を見せるなど我々を驚かせてくれました。

彼の研究成果は、博士留学生の帰国先のインドネシア、そして、タイ、カンボジアの国際学会で披露され、昨年9月には化学発祥の地であるメンデレーエフ150周年の周期表で知られるロシアのサンクトペテロスブルクでの学会発表をメンデレーエフ本人が講義を行っていた講堂で発表したことを、目を輝かして語っていました。また、海外に積極的に行っていたためかANAのマイレージをためてステータスをあげると話していたことを覚えています。翌週にはイギリスのグラスゴーでの学会発表を控え、イギリス訪問を楽しみにしていました。その時、彼が仕込んだ化学合成実験は、亡くなった日にも進行中であり、その結果を見るのを楽しみにしていたに違いありません。そんな笑顔の素敵な川本さんが学生に愛され、教職員に愛された川本さんが先立たれるとは、我々には受け入れがたいことですが、彼の笑顔を思い浮かべるだけでも、心が和むのは川本さんの人徳ではないかと思います。その際の彼の研究成果は、彼の修士課程の指導学生が単独でイギリスに渡航し発表しました。川本さんが書いた英語原稿をもとに、川本さんの研究成果がお亡くなりになられた後にイギリスで発表されたのです。本当に突然のことでした、私は今でも川本さんがイギリス渡航中でまた日本に戻ってくるのだと信じていたい気持ちでいっぱいです。それでも最後に、お別れの言葉を述べなければいけません。川本さん、さようなら。

## 川本圭祐博士を偲んで

関西学院大学 理工学部 環境・応用化学科

橋本 秀樹

e-mail: hideki-hassy@kwansei.ac.jp

昨年 12 月はじめに、我々が敬愛する川本圭祐博士が、不慮の事故により天国に召されることになりました。その訃報を SPACC 会長の西岡先生から伺った時に、あまりのショックの大きさに言葉を失ったことを記憶しています。あれから丁度一年が経とうとしています。川本くんのことを知るものの一人として、彼がこの世に生を与えられたことの証をするために、この場をお借りして追悼の文章をしたためさせて頂きたいと思います。

私が川本くんと初めて出会ったのは、彼がまだ岡山理科大学大学院の修士課程に在学中の時でした。川本くんは、柴原隆志先生（岡山理科大学名誉教授、2019 年瑞宝中綬章受章）の研究室の最後の学生の一人で、大学院後期博士課程への進学を模索している時でした。当時私は、前任地である大阪市立大学に在職しており、木下勇先生（大阪市立大学名誉教授）を機構長とした異分野横断の研究組織である複合先端研究機構（OCARINA）を立ち上げたばかりの頃でした。木下先生のご息女の大学院修士課程の卒業式の前夜に、彼女の卒業を祝して木下先生ご夫妻・柴原先生ご夫妻にご一緒して岡山で宴席を囲む機会がありました。そのために岡山を訪問した際に川本くんを紹介してもらったのが彼との初めての出会いでした。川本くんは飛び級で大学院に進学しており、とても勢いのある学生だった事を記憶しています。OCARINA での後期博士課程進学を勧めたところ、「僕、頑張りますから！」と是非仲間に加えて欲しいとの強い意気込みを示してくれました。

結局、川本くんは大阪市立大学大学院理学研究科物質分子系専攻で後期博士課程の 3 年間で過ごすことになりました。木下先生・西岡先生・廣津先生が共同で主宰されていた分子設計学研究室に所属することとなったため、必然的に OCARINA で私との共同研究を行う機会に恵まれました。川本くんの提案で、 $[\text{Ru}(\text{bpy})_3]^{2+}$ 錯体の Stark 吸収分光測定に関する研究を行い、研究成果を公表することができました [K. Kawamoto et al., *J. Photochem. Photobiol. A-Chem.* **353**, 618–624 (2018)]。  $[\text{Ru}(\text{bpy})_3]^{2+}$ 錯体は、古くから研究されており、最近では太陽電池やパワフルかつロバストな電子移動触媒が要求されるアプリケーションに広く利用されています。可視部に  $^1\text{MLCT}$  遷移に由来する構造を持った吸収体を与えます。川本くんは、Stark 吸収分光計測を駆使することにより、この吸収帯の構造が起源の異なる複数の遷移に由

来すること、および電荷分離の大きさとその方向を実験的に決定することに世界で初めて成功しました。これまでの多くの研究では、 $[\text{Ru}(\text{bpy})_3]^{2+}$ 錯体の<sup>1</sup>MLCT遷移の起源は、分子軌道計算を用いた研究成果を引用して議論されてきました。川本くんの研究成果は、正に温故知新であり、従来概念を打破する新たな概念を提示する研究成果となりました。この成果は、彼の博士論文の一つの章を飾っています。川本くんは、大阪市立大学で博士（理学）の学位を取得された後、金沢大学の林先生の研究室で助教として研究者の道を歩まれることになりました。

川本くんとは、研究以外でもプライベートで一緒に楽しむ多くの時間を持ちました。沖縄で開催された学会に彼が出席した時には、ちょうど私の海洋サンプリングとスケジュールが会ったために、協力をお願いし、大漁のマグロ釣り（サンプリング）を楽しんだもらったことがありました。学会発表のために来沖していた川本くんは、十分な装備を持っていなかったこともあり、シャツ一枚でずぶ濡れになり激しい船酔いと格闘しながら、マグロのサンプリングに



川本圭祐博士。環太平洋国際化学会議（Pacifichem2015）にて。

協力してくれました。川本くんが大阪市大に在籍中は、夜になると良く彼を呑みに誘って、サイエンス談義に付き合ってもらいました。また、大阪市大白馬セミナーハウスを利用して一緒にスキーを楽しんだ思い出もあります。川本くんが金沢大学に勤務するようになってからも、折りに触れ研究討論を行ったり、小京都と呼ばれる金沢の夜の街の正しい楽しみ方を探求したりしました。写真は、2015年12月にハワイで開催された環太平洋国際化学会議の際に、彼と一緒にビーチサイドのバーで楽しんだ際の思い出です。川本くんは海外で開催される国際会議に熱心に参加しており、彼の紹介でマレーシアで開催されたアジア化学連合主催の国際会議に参加し、共にランカウイ島での学術交流を楽しんだこともありました。川本くんは、付き合いが良く笑顔が似合うチャーミングな人でした。彼の事を悪く言う人はほとんどいないのではないかと思います。本当にナイスガイでした。

川本くんと最後に二人で会ったのは、2019年7月26日でした。私が公用で富山に出張していた時に、川本くんから研究に関する助言を求めたいと言う連絡があり、出張の帰りに金沢駅で途中下車して、駅構内のイタリアンバーで地ビールを片手にピザをつまみながら、彼の質問に答えたのが最後でした。興味深い光学特性を示す一連の錯体が合成できたので、その分光データの解釈のための助言を得たいと言うのが川本

くんの希望でした。2次元金属ラダー系を彷彿させる興味深い結晶構造を提示してくれたので、私がおの時にたまたま持ち合わせていた大学院の講義に使っている光物性物理関係の講義資料のPDF全てを彼に手渡し、関連文献を調べて一緒に思索を深めましょうと言って別れたのが最後です。その後、川本さんとメールでやりとりを行い、新しい研究方針・研究計画の立案を行い科研費の応募に結びつけたと聞いています。風の噂で、川本さんの申請した科研費が初めて採択されたと聞きました。これから勢いを増し、自立した研究者として益々の活躍が期待されただけに、彼の急逝は本当に残念でなりません。怒濤のごとく駆け抜けた30年の人生であったと思います。どうか、川本さんの魂が天国で安らかにあることをお祈りします。ご遺族・ご親族・親交のあった方々の上に神さまからの癒やしと平安がありますように、心よりお祈りいたします。

『見よ、わたしはあなたと共にいる。あなたがどこへ行っても、わたしはあなたを守り、必ずこの土地に連れ帰る。わたしは、あなたに約束したことを果たすまで決して見捨てない。』（創世記 28：15）

## 川本圭祐君 追悼

岡山理科大学フロンティア理工学研究所

赤司 治夫

e-mail: akashi@ifst.ous.ac.jp

川本圭祐君が事故で急逝されたということを知ったときの自分の気持ちを書くことは、あれから一年が過ぎようとしている今でもとても難しいです。

川本圭祐君と私が初めて出会ったのは 2009 年の春、当時、柴原隆志先生が主宰されておられた岡山理科大学理学部化学科の錯体化学研究室に大学の 3 年次に進級したばかりの川本君が配属されてきたことが始まりでした。川本君は早期卒業制度を利用して大学院への進学を目指すコースの特別研究生として配属されておりました。この制度は学科内の成績優秀者数名にのみに許される特別な制度です。研究室での川本君は、シッフ塩基を配位子とする亜鉛やケイ素錯体を合成して、その蛍光特性を実験と計算機化学の両方から調べていく研究に携わっていました。当時の研究成果は日本化学会の速報誌に速報論文として掲載されています (Fluorescent fluoro-silicon(IV) complexes with Schiff base ligands: Kawamoto, Keisuke; Akashi, Haruo; Yamasaki, Mikio; Shibahara, Takashi, *Chemistry Letters*, 2013, Volume: 42, Issue: 4, Pages: 389-391.)。

川本君は、岡山理科大学大学院理学研究科化学専攻での学びを修了され、修士号を取得された後、本人の希望でもあった大阪市立大学に進学されて博士号を取得されました。研究が順調なときもそうでなかったときも、川本君に会う度に彼の存在感がどんどん大きくなっていく、そんな彼の姿に驚かされたことが何度もありました。そんな川本君との思い出をひとつあげるとしたなら、岡山理科大学で開催された、先端錯体工学研究会年会で招待講演者として川本君に講演をしていただいたときのことが印象深く心に残っています (招待講演題目: 単一構造の 2 次元モリブデンブルーシートボトムアップ合成と吸収特性の分子サイズ依存性)。2019 年 8 月 9 日のことでした。錯体化学の世界に身をおいてからずっと、錯体の難しい合成に挑戦し続けてきた川本君らしく、構造を制御しながら合成することが大変困難なモリブデンブルーを二次元シート状に拡張しながら合成して、その構造と原子価間電荷移動吸収の波長がシートのサイズと相関を示すことを明らかにした意欲的な研究の成果でした。講演終了後、母校での招待講演を成功させて満足そうな川本君の笑顔を見ながら、私も少し誇らしい気持ちになったことを思い出します。そして彼の講演を聞いた彼の後輩の中から、彼に続く研究者が成長してくれることを心から願いました。

川本君は天賦の才に恵まれていただけでなく、多くの先輩、同僚そして後輩までもひきつける魅力、そして強い運さえももっていました。大学で教育と研究に携わる職を得ることは決して簡単なことではないことは、誰もが知ることですが、博士号を取得された後、川本君がとてもスムーズに金沢大学で職を得られて、研究者としてのキャリアをスタートしたときには、本当に驚きを感じました。ここにいたるまでには、大変だったこともたくさんあったはずですが、それを感じさせない前向きな生き方が、川本君の魅力だったと思います。それからの川本君の活躍は彼を知るすべての人が認めるところです。そして、川本君が国内外に独自の人脈を作り、若手の研究者として磐石の体制を整えておられた矢先の事故でした。どれほど無念だったことでしょうか。もとより、川本君が岡山を離れられた後は、年に数回、学会や会議に参加したときにお互いに会って近況を伝え合い、楽しい時間を共有することが当たり前になっていた私にとっては、また学会などにお邪魔したときにいつも通りに川本君と再会できる気がしてなりません。いつも明るい笑顔で現れた、あの元気な川本君が、かくも若くして逝ってしまわれたという、対極にあるようなつらい事実を受け止めることはとても大変なことです。今しばらく、心よりご冥福をお祈りするのみです。



2019 年度 先端錯体工学研究会年会（岡山理科大学）での川本君の招待講演の様子

## 川本圭祐先生を偲ぶ

SPACC 事務局 生体分子設計学研究室 2015 年度卒業生  
前田 友梨

12 月初め、川本圭祐先生のご逝去の報に接し、伺った当初は全く信じることができず、次第に言葉の意味を理解はしたものの、悲しみから言葉になりませんでした。

川本圭祐先生は岡山理科大学修士課程を飛び級して、私の一つ上の先輩として大阪市立大学後期博士課程に入学されました。そこから、生体分子設計学研究室の仲間として、3 年間研究室生活をともに歩んでまいりました。その朗らかな性格より、学年問わず研究室のメンバーから広く慕われ、また大阪市立大学にいらした時から既に体型も心も大らかで、後輩たちからの微笑ましいイタズラや無茶な要望に対して、いつも優しい笑顔を湛えつつ、気の利いた一言を交えながら格好よく物事を遂行しておられました（私からは、よく「プーさん」と呼ばれて、お腹を突っつかれておりましたが、いつも笑って許してくださっていました。）。一方その裏で、いつも真面目に努力しておられ、何事に対しても実直に向き合うお姿を拝見しており、後輩の目線から尊敬しておりました。



Fig. 生体分子設計学研究室 後期博士課程学生のみで通天閣に行った際の写真  
左:川本先生、中央:前田(1年後輩)、右:今仲庸介(2年後輩)

川本先生は学位取得後すぐに、金沢大学大学院 自然科学研究科 物質化学専攻 無機化学研究室にて助教として勤められていました。私もありがたいことに学位取得後、すぐに名古屋工業大学大学院 分析化学研究室にて職を得ることができました。しかしながら、無機化学分野から分析分野へと変わったこと、地域性が大きく異なること等で、大学教員という立場において研究内容や学生指導に関して多く思い悩むことがあり、ご相談させていただきました。ご多忙にも関わらず、その度に同じ大学教員としての目線で親身に耳を傾けて素直なアドバイスを下さって、大変励みになるとともに、とても参考にさせて頂いておりました。SPACC 事務局運営においても、慣れない大学業務が山積し、多忙を極めた私を気遣っての、ご助力、ご助言に支えられ、何とか滞りなく業務を遂行させて頂くことができたこと、感謝

の念に尽きません。なお先日、私は一身上の都合により大学を退職致しましたので、大学教員の職に在らぬ現在ではありますが、教員でいられたこともまた、川本先生のお力添えあつてのことと感じて止みません。

どうか安らかに永眠されますこと、心よりお祈り申し上げます。

## 川本圭祐先生を偲ぶ言葉

第一稀元素化学工業株式会社  
(金沢大学大学院自然科学研究科修了)

鎌倉 宗太郎

e-mail: kamakura-sotaro@zr.dkkk.co.jp

川本 圭祐先生の在りし日の姿を偲びつつ、先生からご教授いただいた教え子の一人として、先生との思い出をここに記し追悼とさせていただきます。

私が初めて川本先生にお会いしたのは、学部生が受ける無機化学実験のときでした。当時の先生は誰にでも朗らかでありながら、話してみると学問への熱い情熱を感じさせる先生でした。先生からの本格的な指導を頂くことになったのは、その半年後の林宜仁教授の無機化学研究室に配属されてからです。研究を始めて1年は博士課程の先輩に指導して頂いており、川本先生とはあまり関わりを持つことはありませんでした。それは私の研究テーマが先生の専門とする分野とは少し離れていたからです。当時の私は先生と関わることはあまりないだろうと思っていました。そんな私が修士課程に進学してから研究に行き詰まるようになると、先生は頻りにディスカッションの機会を設けてくださいました。のちに、なぜ私の研究に時間をとって下さるのかお尋ねしたところ、「鎌倉くんの研究が面白そうだから」と答えられていました。当時の私にとって、自分の研究成果を初めて人に評価して頂けたことから、より奮起したのを覚えています。先生と私の議論は白熱することが多々有り、気づいたときには6時間が経っていたということもありました。そのような学問に対して真摯で情熱的に打ち込んだ時間は、今思うと非常に貴重であり自分は幸福だったのだと感じています。

先生は研究室の中だけではなく、学外の活動でも様々な経験をさせてくださいました。金沢大学のキャンパスは山の上であり、ついつい研究室に引きこもりがちになってしまいます。その中で私達をたびたび学外に連れて行って、気分転換できるようにしてくださいました。そしてこの SPACC を始めとした学会への参加の機会も頂き、より多くの価値ある経験ができたと思っております。

学生に対しても丁寧でありながら別け隔てなく接する先生のお人柄は、多くの人を惹き付けていたのだと感じています。私もそんな先生の人柄に惹かれた者の一人です。大変お世話になった先生に対して何一つ恩返しができていることが残念でなりません。この SPACC のニューズレターにおいて先生との思い出を記すことで、少しでも先生へご恩をお返しできていれば幸いです。先生の教えや思い出をしっかりと胸に刻み、心からの哀悼の意を表すとともにご冥福をお祈りいたします。

## 2. 日本化学会春季年会特別企画（SPACC 協賛）開催のお知らせ

日本化学会第 101 春季年会において、本研究会 バイオ部会のメンバーである望月先生（(株) バイオアパタイト）と松村先生（東京医療保健大学）とが応募されたが特別企画が採択されました。SPACC では採択された特別企画に協賛します。会員の皆様の奮ってのご参加をお待ちしております。

～日時～

2021 年 3 月 22 日（月）（日本化学会第 101 春季年会）  
9 時 30 分～11 時 40 分

～企画タイトル～

感染症予防技術の構築を目指した化学的アプローチ  
Development of progressive chemical technology against infectious disease

～趣旨～

近年、医療応用に向けた技術開発が多くなされ、様々な臨床現場での応用が期待されている。新型コロナウイルス感染症をはじめとする新興感染症や再興感染症は我々の生活様式を変化させるものであり、感染症の診断に用いられる検査技術の開発や感染予防に関する研究開発が活発に行われてきている。本企画では、産官学が連携した医工連携により研究を進めている講演者が集い、感染症の予防に向けた化学技術に焦点を当て、微生物に由来する感染症に関して概説した上で、実際に活用されている技術を紹介するとともに、最先端の研究事例について紹介する。

～プログラム～

09:00-09:05 趣旨説明（東京医療保健大学） 松村有里子

座長（東京医療保健大学） 松村有里子  
09:05-09:40 病原微生物の性質と宿主との関わり  
（大阪医科大学） 中野 隆史

座長（(株) バイオアパタイト） 望月千尋  
09:40-10:15 バイオフィルム形成と口腔および全身感染症  
（国立感染症研究所） 泉福 英信

10:15-10:30 新 JIS 規格携帯型微生物観察器で見るミクロの世界  
（株式会社 mil-kin） 狩野 清史

座長（東京医療保健大学） 松村有里子  
10:30-11:00 口腔内環境の健全化と歯の延命を目指すバイオアクティブ新素材  
（株式会社松風） 水野 光春

11:00-11:35 大気圧プラズマを用いた液体および気体中の殺菌処理  
（東京工業大学 未来産業技術研究所） 沖野 晃俊

11:35-11:40 まとめ（(株) バイオアパタイト） 望月千尋

### 3. SPACC 一般会員および学生会員ご入会のお願い

先端錯体工学研究会(SPACC)会員の皆様におかれましては、常日頃より本学会の活動にご支援・ご協力を賜り、誠にありがとうございます。学生様につきましてもご入会をお待ちしております。ご希望の場合、1 研究室あたり年会費 1,000 円で、20 名様まで入会・登録していただけます。SPACC が主催する国際会議において、ポスター賞の審査には、必ず学生会員登録が必要です。

#### [年会費]

##### ・個人正会員

賛助会員: 50,000 円, 正会員 : 3,000 円

##### ・学生会員 (1口) 1,000 円

(1 研究室で1口につき20名まで)

##### ・法人会員 (1口)

維持会員: 10万円

一般会員: 2万円

振込先: 先端錯体工学研究会

##### ・振込用紙を用いた郵便振込

00130-7-773549

##### ・銀行からのお振込

ゆうちょ銀行

(金融機関コード: 9900)

〇一九店 (店番: 019)

当座 0773549

\*学生会員の場合:

会費の振り込みの際は、担当教員名か研究室名を、通信欄あるいは振込者名に書き加えて下さい。**また、登録学生およびメールアドレスは、忘れずに事務局宛にお知らせください。**

#### [入会手続]

##### ・電子メールによる手続

以下の URL に記載されているフォームをダウンロードするかコピーして必要事項をご記入の上、jimukyoku@spacc.gr.jp 宛に送信してください。

個人正会員用: <http://spacc.gr.jp/page2e.html>

学生用会員: <http://spacc.gr.jp/page2f.html>

法人用: <http://spacc.gr.jp/page2g.html>

##### ・郵送による手続

以下の URL に記載されているフォームをダウンロードして、必要事項をご記入の上、事務局宛に郵送して下さい。

個人正会員用: <http://spacc.gr.jp/page2e.html>

学生用会員: <http://spacc.gr.jp/page2f.html>

法人用: <http://spacc.gr.jp/page2g.html>

#### 郵送先

〒141-8648 品川区東五反田 4-1-17

東京医療保健大学大学院

医療保健学研究科

松村 有里子

#### 4. 今後の行事予定及び事務局からのお知らせ

主催

##### The 27<sup>th</sup> International SPACC Symposium (SPACC27)

場所: 高知工科大学永国寺キャンパス  
会期: 2021年(時期未定)  
(COVID-19の影響により延期しました)  
担当: 小廣和哉 (高知工科大)  
伊藤亮孝 (高知工科大)  
松本健司 (高知大学)  
詳細は、追ってご連絡致します。

主催

##### The 28<sup>th</sup> International SPACC Symposium (SPACC28)

場所: 台湾  
会期: 2022年(時期未定)  
(COVID-19の影響により延期しました)  
担当: 天尾 豊 (大阪市立大学)  
Kevin C.-W. Wu  
(National Taiwan University)  
詳細は、追ってご連絡致します

共催

##### Pacificchem2021 シンポジウム(#127) " New Directions in Homo/Heterogenous Catalysis of Hydrogen Production and CO<sub>2</sub> Utilization "

会期: 2021年12月 (来年度に変更となりました)

会場: ハワイ、Hilton Waikiki Beach  
アブストラクト提出締切(再): 日本時間 2021年4月12日(月)

シンポジウム世話人:

Yutaka Amao, Yusuke Yamada, David E Herbert, Shi Zhang Qiao

#### 編集後記

今月号では川本先生の追悼特集を掲載させていただきました。まだ1年も経たず、心を整理できない中ではあったかと思いますが、川本君と特に関係の深い方々に、記事をご寄稿いただきました。彼に思いを馳せ偲ぶ特別なニュースレターになったのではないかと思います。ご寄稿いただきました皆様、誠に有難う御座いました。(桑村)

#### ニュースレター担当への問い合わせ方法

ご研究紹介等、SPACC ニュースレターへのご寄稿をしていただける場合や、本会が主催または協賛するシンポジウムの情報は、事務局までお気軽にお知らせください。

先端錯体工学研究会事務局  
E-mail: jimukyoku@spacc.gr.jp  
東京医療保健大学大学院 松村有里子

信頼・実績 No.1 !

# 超純水装置 Mill-Q® Integral MT

マルチアプリケーション対応装置・バリデーション可能



水質保証付き！ Water in a Bottled

## 分子生物学用水・細胞培養用水

「水割」プランでお得にまとめて購入可能！



メルク 水割

検索



 竹田理化工業株式会社

本社 〒150-0021 東京都渋谷区恵比寿西2-7-5 <http://www.takeda-rika.co.jp>

営業本部 TEL.03(5489)8511  
 東京支店 TEL.03(5489)8521  
 西東京支店 TEL.042(589)1192  
 千葉支店 TEL.043(441)4881  
 筑波支店 TEL.029(855)1031

いわき営業所 TEL.0246(85)0650  
 鹿島支店 TEL.0299(92)1041  
 湘南支店 TEL.0463(25)6891  
 横浜支店 TEL.045(642)4341  
 三島支店 TEL.055(991)2711

埼玉支店 TEL.048(729)6937  
 高崎支店 TEL.027(310)8860  
 宇都宮支店 TEL.028(611)3761  
 延岡事務所 TEL.0982(29)3602